

鹿児島市及び連携中枢都市圏3市のNPO（市民活動団体）のご紹介

物流に新しい提案をしていきたい。
ものをあげるといふ行為は、
ほんとうの支援に
つながらないから。

はらだ いっせい
NPO法人フードバンクかごしま（代表理事 原田 一世）

まだ食べられるのに廃棄されてしまう食品、いわゆる『食品ロス』が日本では年間646万tにもものぼる。一人当たりで換算すると毎日お茶碗一杯分136gのご飯の量が捨てられている。ここ鹿児島のフードバンクに常時備蓄する食品は年間約500t。西日本のフードバンク団体の中で1番に多い。

フードバンク？ 食べ物の銀行？

取材に向かった先は倉庫だった。整然と積み上げられた段ボールの山。中身はペットボトルの水、コーヒー、お菓子、レトルト食品などなど。まるでストアの倉庫だ。「ここにあるのはメーカーが小売店に卸せなくなったものです。ただ、それは賞味期限や消費期限が切れているわけではありません。たとえば、景品の応募券がついたジュースはその締め切りが過ぎると、ラベルの貼り換え作業をするより捨てたほうが安上がりになります」。お歳暮、お鍋の素など季節感の強い商品も消費期限を待たずに捨てられる。倉庫代の方が高つくのだ。メーカーによっては、廃棄分を見越したうえで、大量生産して単価を下げることもある。できるだけ安くという消費者のニーズにこたえる今の物流システムに一種のこわさを感じる。一方で、原田さんたちのように視野を広げると新たな展開が待っている。だれかが間に入って仕組みをつくれれば、廃棄処分の運命が変わる。

フードバンクかごしま設立のきっかけ

フードバンク活動を始めたきっかけは、2011年3月11日に発生した東日本大震災だった。遠く離れた鹿児島から何かできることがないかと模索する中、日本で最初に設立されたフードバンク団体であるセカンドハーベスト・ジャパンの活動を知った。東京に拠点を置くセカンドハーベスト・ジャパンは大震災当日、電車などが運休し帰宅が困難になった人に対して炊き出し活動を行い、次の日には東北の被災地に4トントラックいっぱいの食料を届けていた。そこで、鹿児島で集めた食品をセカンドハーベスト・ジャパンのトラックで被災地に届けてもらう活動としてフードバンクかごしまを設立した。しかし、月日が進みメディアなどでも被災地のニュースが少なくなってくると、鹿児島で集まる食品は少なくなってきた。被災地に対して長期的に支援を行うにはどうすれば良いか？鹿児島で同規模の災害が発生した時にすぐに支援できる方法はないか？と考えた答えが、平時から有事に備えるための仕組みづくりだった。

被災地支援活動

災害発生時に食糧支援を行うフードバンク団体はあるが、災害支援を主な活動目的としているフードバンクは「フードバンクかごしま」だけである。場当たりの支援ではなく平時から有事の際に、食品を「集める」「保管・管理する」「配る」仕組みづくりを行政や食品関連企業だけでなく、社会福祉協議会、地域のNPO、有識者、学生など多様な主体との協働によってフードバンクかごしまを創ってきた。2016年4月に発生した熊本地震の際には本震発生後すぐに熊本県からの要請を受け、鹿児島から食糧支援することができた。また、平時から有事に備えるための関係づくりを行っていたことから、セカンドハーベスト・ジャパンや食品関連企業、NPO、行政などと連携した支援を長期的に行えただけでなく、この様な取組みは鹿児島に必要であることが認知されるきっかけとなった。

これからのフードバンク

フードバンクと言うと企業からもらった食べ物を困っている人に配る活動として取り上げられることが多く、正義や美談で生活困窮者の支援活動という社会イメージが刷り込まれているが、それには違和感を感じている。企業は社会貢献だけのために食品を提供するわけではない、生活困窮者に食料を提供するという行為はほんとうの支援なのか？とも考える。フードバンクかごしまが取組むフードバンクとは、企業に対して「新しい物流」の提案をすることや、生活困窮者の自立を支援する施設・団体への食の後方支援をすることであり、企業と福祉の間を繋ぐ役割を担うことである。現在、フードバンクに求められる役割や期待は、フードバンクかごしまが設立された2011年の頃と比べて、多様化し大きくなっている。求められる役割として災害時の対応だけでなく、食品ロス削減に向けた環境対策や食育の取組み、生活困窮者支援や全国的に広がっている子どもの貧困対策としての子ども食堂などへの食品提供が挙げられるが、フードバンク“だけ”で対応できる訳ではない。これからも多様な主体との関係を構築し協働によって新しい社会システムを共創していきたい。

NPO法人フードバンクかごしま 団体概要

主な活動内容

食品関連企業等から食べられるにも関わらず、様々な理由で処分されてしまう食品を提供してもらい、地域の福祉施設や生活困窮者支援団体などに届けるフードバンク活動の他に、被災地支援及び防災啓発活動や食品ロス削減啓発活動、食のセーフティネット構築活動、地域の活性化活動などを行っている。



今後の展望・PRしたいこと

フードバンクかごしまが目指す取組みは、企業に対しての「新しい物流」の提案であり、食品ロスを多様な主体との協働によって有効利用することで削減することを目指している。地域社会全体で食品ロスを活用できる仕組みづくりをしていきたい。

課題への取り組み

フードバンク団体として食品取扱量も増え、災害対応や福祉施設・団体で活用できる仕組みづくりも進んでいるが、食品の保管・管理に必要なコストも大きくなっている。持続可能な活動にしていくには安定した活動資金を集めることも重要な課題と考え、企業や個人などが資金面で支援したくなるような仕組みを創っていきたい。

お問い合わせ

- 団体名：NPO法人フードバンクかごしま
- Mail：foodbank@ksnk.org

- 代表者：原田 一世
- ホームページ：http://ksnk.org/